



広げよ 可能性の地図、
定めよ 羅針盤



真摯 勤勉 質実
山口県立小野田高等学校
校長通信（発行不定期）

平成31年2月6日 **第10号**

MOTTAINAI



ワンガリ・マータイ

先日、放課後、誰もいない教室に電気がついていました。思わず口をついて出てきた言葉は「もったいない」。

「もったいない」。身近でよく使われる言葉ですね。しかし、今、この日本語が、国境を越えて、世界に広まりつつあることを君たちは知っているでしょうか。

国土が狭く資源も乏しいわが国は、昔から「資源の無駄使いをしない」「ものを大切にすること」を尊んできました。その日本人が伝統的に大切にしてきた美徳が徐々に失われていったのが、戦後の高度経済成長の時代であったといわれます。大量生産の経済システムは必然的に大量消費を促すことになり、それが「資源の無駄使い」「大量廃棄物」「公害・環境破壊」となってあらわれていきました。しかし、ものを大切にする日本人の精神文化は完全に廃れてしまうことはなく、今にいたるまでしっかりと受け継がれてきたのです。

2005年、一人のアフリカ人女性が日本にやってきました。ケニア出身のワンガリ・マータイさん。彼女は農家に生まれ、豊かな家庭ではなかったものの、努力してアメリカやケニアの大学で学位を取得、1971年にナイロビ大学教授に就任しました。環境問題に対する造詣が深く、1977年から砂漠化防止のために植林活動を開始しました。2004年には、こうした環境保護活動のほか、アフリカ女性の権利を向上させたことなども加わって、彼女はノーベル平和賞を受賞しました。

こうした経歴をもつマータイさんが「もったいない」という言葉を知ったのは、環境問題を話し合う国際会議が京都で開かれた際に来日した時でした。マータイさんは、環境を保護するためには、Reduce（リデュース・消費削減）、Reuse（リユース・再利用）、Recycle（リサイクル・再生利用）、そしてかけがえのない地球資源に対する Respect（リスペクト・尊敬の念）が大切だと考えました。そして、これらRで始まる4つの言葉を1つにまとめるような言葉はないだろうか、と思いをめぐらしました。そのとき、彼女は知ったのです。「もったいない」という日本語を。

マータイさんは、「もったいない」という言葉をそのまま「MOTTAINAI」と英語で表現しました。この言葉を環境問題の世界共通のスローガンにしようとしたのです。彼女は訪問する先々の国々で、「MOTTAINAI」キャンペーンを始めます。その活動は彼女が2011年に亡くなった後も、地球環境を保護し、持続可能な循環型社会の構築を目指す運動として展開されています。

さてそれでは、小野田高校の生徒諸君、君たちはどうでしょうか。自分の胸に手をあてて考えてみてください。自分はものを大切にしているか、資源の無駄遣いをしていないか、地球に優しい行動をしているか、と。

部活動～マネージャーとしての誇り～

部活動を参観していて、時に思うことがあります。

それは、マネージャーのこと。本校でも多くの部で、マネージャーとして活動してくれている生徒たちがいます。

以下は野球部についての話です。野球部には女子2人がマネージャーとして活動しています。彼女たちの仕事は、グラウンドを整備したり、ボールを拾ったり、スコアブックに記録をしたり、選手を励ましたり…

マネージャー経験のない私などは、時々「一体何が楽しいんだろうか」と思うことがあります。来る日も来る日も、猛暑の夏も、粉雪舞い散る冬の寒い日も、プレーに直接関わらない仕事に励む。しかも、選手ではない彼女たちは、スポットライトをあびることもない。ベンチに入れないことさえあるでしょう。

しかし、頑張っているのです。選手たちのために、部のために。

世の中には、華やかで脚光をあびる仕事があります。でも、そうではない仕事もある。むしろ仕事の大半はあまり楽しいとはいえない地味なものです。しかし、「ヒーロー・ヒロイン」たちが活躍できるのは、やはり裏方の仕事をしてくれる、縁の下の力持ちのような人たちがいるからではないでしょうか。

どのような仕事に対しても、プライドをもって頑張れる人というのは、私は素晴らしい人だと思います。とりわけ、自分のためではなく、他者のために真剣に頑張れる人というのは、尊敬に値する人だと思います。

「野球部に少しでも貢献できたらそれだけで嬉しい」。彼女たちの言葉です。

運動部・文化部の選手の皆さん。マネージャーは部を下から支えてくれるかけがえのない存在です。共に切磋琢磨し、活力溢れる輝きのある部にしてください！



卒業式に向けて

祝卒業



3月1日、この日、山口県のすべての県立高校で卒業式が開催されます。

3年生の生徒諸君、卒業式の主役は君たちです。小野田高校はどうでしたか。充実した高校生活でしたか。もちろん、人生で最も多感な3年間、しかも、受験という重圧下にある日々は、必ずしもすべてバラ色だったわけではないと思います。辛く苦しいこともあったでしょう。友人とのいさかい、先生や家族と

のトラブル等もあったかもしれませんね。

しかし、そういう日々を経験し、卒業式を迎える3年生。確かな事は、君たちはこの学舎で、かけがえのない日々を送ったということです。君たちは小野田高校卒業生となります。その母校で過ごした日々のことは、どうかこれからも大切にしてください。

1・2年生の生徒諸君、君たちは、卒業式では脇役です。しかし、主役が引き立つかどうかは脇役次第。この日、新たな人生へと旅立っていく3年生のために、是非、心に残る素晴らしい式にしてあげてください。とりあえず、しっかりと心を込めて校歌を歌いましょう。